

書かないんですか。決算書に上がってきてますよね、雑収入1,100万円。そのことも、いいです、3月の議会でもう一回やります。

○議長（初村 久藏君） 時間ですので、もうやめてください。

○議員（7番 入江 有紀君） 分かりました。

○議長（初村 久藏君） あとは事務所に行って聞いてください、個人的に。

これで、入江有紀君の質問は終わりました。

.....

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。

再開を11時5分からとします。

午前10時53分休憩

.....

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き市政一般質問を行います。1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 皆様、おはようございます。対政会、1番議員の糸瀬雅之でございます。

12月に入りまして、もう今年も残り僅かとなりました。

今年を振り返ってみますと、市民皆様、一年間を通じまして、新型コロナウイルスとの戦いではなかったでしょうか。

今では全国的に落ち着きを取り戻してはいますが、最近また世界中で新たな変異ウイルス、オミクロン株が拡大しつつあります。日本におきましても数名の感染者が確認されております。

岸田総理大臣も水際対策の強化措置として、全世界から日本に入国をする際の厳しい措置を取られております。

対馬市でも、これから年末年始にかけて、観光客や帰省客の出入りが多くなると予想されております。

一つだけ、比田勝市長にお願いですけれども、特に対馬空港、厳原港ターミナル、比田勝港ターミナルの到着口に自動体温装置等の機械がございません。

もう一度、水際対策の徹底を関係機関と確認を取っていただき、今後も市民皆様、油断することなく、感染症対策を取りつつ、日常生活を送っていただきたいと思います。

私も市議会議員として、6か月が過ぎました。まだまだ不慣れな新人議員ではございますが、市民の代弁者として、今後も対馬市の発展と一人でも多くの市民が安心して安全な豊かな生活が送れますよう、頑張ってまいりたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

一部、通告の順番を変えていますので、よろしく願いいたします。

まずは、議員定数の削減についてでございます。

今回、私の5月の市議会議員選挙の1番の選挙公約でございました議員定数について、市長に今のお考えをお聞きしたいと思います。

対馬市合併時、90名でスタートしました議員定数でしたが、平成29年5月の市議会議員の選挙から今現在までに19名の定数となっております。

今、対馬市が最大の課題としています人口減少の問題、それに伴って、税収の減少による財源の確保が対馬市の頭の痛いところではないかと思えます。

私たち市議会議員は、市民の税金で議員報酬をいただいて働いております。

よく市民から耳にすることなんですが、対馬市の議員はまだ多過ぎます。ケーブルテレビを見ていると居眠りをされている議員がおられます。一般質問をされない議員さんは、日頃、対馬のことを市民のことを考えられているんですかね。

私たちの税金を糸瀬議員さん、大切に使ってください。このような様々な厳しい声が寄せられています。

私を含め対馬市民から選ばれた19名の議員は、市長をはじめ職員、市民と一体となり、対馬市発展のために力を合わせて一歩ずつ進まなければなりません。

議員定数の削減については様々な意見もございますが、あえて私は次の令和7年の市議会議員選挙は3名を削減し、議員定数16名で十分だと思っておりますので、市長の答弁はしにくいかなとは思いますが、お答えをお願いいたします。

次に、観光地の整備計画についてでございます。

今、対馬市には様々な観光地や観光施設がございますが、将来的に島内はもとより、島外、外国人観光客の誘致を進めていく上で、対馬島内にはまだまだ観光地が不足していると思えます。

そこで、今回質問させていただいたのは、上県町佐護地区にあります千俵蒔でございます。

この山は市長も御存じのとおり、標高287メートル、2008年3月に40年ぶりに草原再生プロジェクトにより、地元佐護地区の住民の皆様や消防団が中心となり、毎年、天気の良い日には野焼きを行い、今の草原を見事に復活させていただいております。山頂から見る景色はまさに360度、大パノラマを見ることが出来ます。また、民間会社の風力発電機が1基稼働しており、観光地としては対馬では絶景の観光スポットではないかと思えます。

しかしながら、山頂へ向かう道路は、普通車の出入りはできますが、団体客の大型バスの乗り入れが困難な道路状況でございます。

道路整備を含めまして、山頂に駐車場やトイレ、季節に応じた花や植栽、対馬馬を活用した遊

歩道の整備、子供から大人まで遊べる公園や休憩所など、自然を最大限生かした千俵蒔の整備計画を前向きに考えていただきたく、市長の答弁をお願いいたします。

最後に、離島留学制度についてでございます。

この離島留学制度とは、全国の児童、生徒が日本各地にあります離島の小学校、中学校、高校に住民票を移し、里親さんの家や寮生活を送りながら、地域性を生かした教育や体験学習を学び、まちおこしの一環としてつくられたすばらしい制度でございます。

対馬市におきましても、人口減少、少子化により、学校の統廃合が進んでいるのは、皆様も感じられていると思います。

そこで、現在、対馬には対馬高校、豊玉高校、上対馬高校の3つの高校がございます。いずれの高校も毎年受験者数は定員割れの状況であり、深刻な少子化の問題であります。

今回質問させていただいたのは、対馬はやはり第1次産業の島でございます。

特に基幹産業であります水産業は、将来的に深刻な後継者不足になると思われまます。

この離島留学制度を利用して、全国から第1次産業の体験ができる生徒を上対馬高等学校に、新たにまずは体験型のコースとして新設してはどうか、市長の答弁をお願いいたします。

以上、今回は3つの質問をさせていただきました。

市長の今後に期待が持てる答弁をよろしく願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。

私のほうからは、通告の順番でよろしいでしょうか。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） はい。

○市長（比田勝 尚喜君） 初めに、千俵蒔山の観光地整備についてでございますけれども、千俵蒔山は、今、議員もおっしゃられたように、上県町佐護に位置し、対馬では珍しく全山が草原となっており、その景観は特別なものがあります。

山頂からは北部対馬の山並みをはるかに見渡せ、韓国のビル群を間近に望むことができます。歴史的にも防人ののろしりレーの起点となった山であり、重要な役割を果たしております。

現在は、風力発電の大きな風車が設置され、4年間中断されておりますが、パラグライダーの大会も開催されております。

対馬で唯一、アケボノスミレやヒゴタイが自生しており、生物学的にも重要な貴重な山となっております。

佐護地区の方々が中心となり、千俵蒔山の貴重な景観を維持するため、毎年3月に野焼きを実施されておりますが、コロナ等で中止されており、今年度は3年ぶりに火を入れる検討をされていると聞いております。

さて、千俵蒔山を観光地に整備してはとのことではありますが、この佐護地域には、近くに野生生物保護センターを中心とした棹崎公園、異国の見える丘展望台、佐護平野のバードウォッチング公園など、自然をテーマにした観光施設が整備されております。

景観を楽しむ方々はもちろんのこと、ヤマネコや草花、昆虫観察、バードウォッチングの愛好家も多数訪れられ、自然観光コースとして認知されています。

この千俵蒔山には、将来的にはアクセス道路の整備を検討したいと考えておりますが、こうした環境の中にある千俵蒔山は、そのままの姿を維持することも重要だというふうに捉えております。

地域の方々のお力をお借りいたしながら、ヤマネコの住む佐護地域一帯を含め、千俵蒔山を自然公園として、今後も維持管理してまいりたいと考えております。

次に、議会改革についてでございますが、現在の議員定数19人は、平成27年3月定例会において、議員定数の調査研究を目的として、議会特別委員会が設置され、参考人からの意見聴取及び対馬市広報紙やホームページを利用したパブリックコメントの募集を行い、これらの意見を参考として、同委員会において21人から19人に削減することを決定し、平成28年3月定例会に、対馬市議会議員定数条例の一部を改正する条例について委員会から提出し、御決定いただいたものでございます。

また、それよりさきの平成25年2月には、地方自治法第74条第1項の規定により、市民の代表者から対馬市議会議員定数を21人から18人とする対馬市議会議員定数条例の改正請求の提出がありましたが、同月に招集した臨時会において否決された経緯もございます。

これまで数度にわたり、議会自らの責任と判断により、議員定数の削減がなされており、その議決の重要性と意義について十分に認識しているところでございます。

議員、御質問の財政面及び対馬市人口減少の観点からの本市の議員定数が適切かにつきまして、議員定数は、市民から権限を負託された市議会の在り方そのものに係る根幹的な事項であり、市議会による自己決定が基本であるというふうに考えております。

次に、離島留学制度についてでございますが、少子高齢化が進む本市において、人口減少問題は最重要課題と捉えております。

少子化が進むことで、島内の小中学校の生徒数が減少し、学校教育の再編成により、小中学校の統廃合も余儀なくされております。

また、全島の中学校を卒業する生徒数も、5年前と比較すると25%減少しており、年々減少傾向にあった上対馬高校への入学者数につきましても、本年度は29名の入学者数という状況であります。

このことから、長崎県教育庁総務課県立学校改革推進室において、第三期長崎県立高等学校改

革基本方針に基づき、長崎県立上対馬高等学校活性化協議会が設置されております。

この協議会は、入学者数の増加を図ることを目的として、上対馬高等学校長、地元小中学校長及び各PTAの代表者と長崎県・対馬市の教育委員会及び行政関係者等により委員が構成され、具体的な上対馬高校の活性化策について、検討、協議が行われております。

本協議会において、島外から生徒を呼び込むための新たな取組につきましても協議が行われているとお聞きしており、学校の機能と教育水準の維持向上を図るための協議が引き続き行われることとなっております。

本市の取組につきましては、人口減少対策に取り組む指針として、第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、多角的に分析を行い、人口減少対策に特化した事業に取り組んでおります。

その中で、地元3高校のスポーツ指導者招聘事業は、中学を卒業後、島外の高校へ進学する生徒に対し、地元の高校へ進学を導くため、高校の魅力化事業として取組を進めております。

中学校を卒業して島外の高校へ進学する生徒は、毎年、卒業生の3割を上回っていることから、まずは地元の中学卒業生が地元の3高校に入学し、より一層の対馬愛を育むことで、多くの若者が地元の後継者として残り、担い手として将来活躍してくれることを期待しているところでございます。

今後の取組として、上対馬高校へのコース新設につきましては、教員の人員確保、学校の設備整備等が必要でありまして、また、島外から生徒を呼び込むためには、寮や下宿も必要となり、このような諸問題も含め、協議会の意見として取りまとめられることとなっております。

本協議会には、対馬市教育委員会及び上対馬振興部職員も委員として協議に参加しておりますので、本協議会で取りまとめられた内容を踏まえ、本市といたしましても、できる限りの支援を行い、上対馬高等学校の魅力化に向け、長崎県と協力して取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 市長、ありがとうございました。

まず、議員定数の削減から一問一答で、市長に少しお答えしていただきたいと思います。

今、財源のほうからちょっと1点お尋ねを申し上げたいんですけども、対馬市のいわゆる借金でございますが、今、450億円ほどあると認識をしておりますが、今後の返済の計画というか、そのような方向性をできたら市長にお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今現在、おっしゃられるように地方債残高が約440億円だったです

かね。

これはきちんと計画的に返済はしていくように、起債計画も取り組んでいるところでありますので、この今の起債関係で財政が困るということにはならないと思っております。

そしてまた、今、この起債関係の指数につきましても、健全な比率で推移しております。実質公債費比率が6.0%だったかな、そのぐらいでまだまだ健全な比率で推移しているところでありますので、このことをきちんと財政計画を立てながら、事業等を進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。

今、いわゆる人口も大変減少をしている中で、やはり毎年の税収もだんだん年間少なくなっていくと思います。

この中でやっぱり6町の合併時のときの、私、資料を持っているんですけども、合併時の人口が4万1,000人ぐらいの人口だったと思います。それで、毎年やはり500人から600人ほど年々人口が少なくなっていると思っております。

今現在、11月、これはたしか数字ではございますけれども、11月末現在で2万8,000、もう2万9,000を切りました。定数は19名。

五島市の人口ですけども、これ今3万5,800名、定数は18名でございます。ちなみに壱岐市ですけど、2万5,500人に対しまして、定数、今16名でございます。

これが、対馬市があと、令和7年5月にまた選挙がございますけれども、今のこの人口減少の数字から見ますと、恐らく2万7,000人を切るか切らないかぐらいの数字になると思います。

こちら辺も考えまして、私は今回、議員定数の削減を選挙の公約として取り上げていました。

議員の今の議員報酬ですけども、年間1人当たり合計で大体1人当たり550万円という数字を私は考えております。これを3人の削減によりまして、1年間当たり1,650万円の経費の削減になると思います。これを議員任期4年間で6,600万円の経費の削減になると思っております。

いろいろと議員定数につきましてはメリットもあります。しかし、デメリットもございます。

市長、議員定数の削減によって、メリット・デメリット、それぞれ何があると思われませんか。お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私のほうから具体的なそのメリット・デメリットを申し上げるというよりも、このことについては先ほど答弁いたしましたように、この市議会の在り方の中での根幹的な事項でありますので、ここは私がいろいろ言うよりも、議員皆様の中で、特別委員会等をつ

くっていただいて、その中で検討されることが望ましいのかなというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 多分、もうそのような答えになるとは思っておりますけども、やっぱりこれは議員のメリットといいますと、定数削減によって、やはりこれは経費が削減になりますけども、デメリットとして、やはり対馬市は広いですので、市民の声が届かないというデメリットもあるかとはございます。

しかしながら、やはりこの削減によって、いろいろと地区長さんとか、いろいろと地域マネージャーさんを利用して、デメリットは解消できると思っておりますので、私はそのように考えております。

それと、市長も答弁はしにくいかとございますけども、今、やはり昔から対馬市の市議会議員は若い世代、20代とか30代とか40代とか、そのような若い人たちがなかなか出てこなかった。

市長、そのような若い世代を出すにはどのような考えがよろしいかと思えますか。お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことにつきましては、対馬市議会だけではなくて、全国的にも新聞等で報道されてありますように、やはり議会定数に達しない自治体もあるというようなことで、やはりその自治体における議員の皆様が生活ができる体制での給与体系ができないかというようなことが、あちらこちらの自治体でも検討はされているというようなことは、新聞報道等で読んでいるところであります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。

私も、やはりこの対馬市の議員の年齢層、やはりこれは今、市長が言われるように、このやっぱり対馬市の議員の平均年齢、今65歳でございます。

五島市でございますが、五島市は61歳。隣の老岐市は59歳でございます。

私は最年少52歳、後ろの入江議員は79歳でございます。やはりまだ80近くも頑張っているらしいです。

それで、やはりこの定数の削減も大切なんですけども、今、市長のおっしゃられるように、議員の報酬も含めて今後上げていかないと、若い議員がやはり出てこれない。生活もあります。子育て、教育、冠婚葬祭、そのような出費がやはり若い20代、30代、40代の議員は必要になってきます。

そこら辺も含めて、今後、皆さんと協議を進めて、市民の意見も聞きながら進めていきたいと

思っております。

議員の皆様もいろんな話を話し合っていかなければなりませんけども、やはり市議会議員として一番大切なのは、市民の税金を無駄にせず、市民の声を反映させながら、行政の監視機能もしつつ、精一杯働くことが対馬市の発展につながると思いますので、私を含め19名の議員の皆様、今後とも一生懸命頑張っていきましょう。（「はい、分かりました」と呼ぶ者あり）

次に、観光地の整備計画でございます。千俵蒔です。

市長は当初1期目の初当選の頃、私が覚えているのは、千俵蒔と御岳の整備を考えていくと、私も何か書いてあるのを私は記憶をしております。

今後、また新たなどこか整備計画をする、新規で計画があるのか、そこをお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も、この公約の中で御岳や白嶽、そして対馬の巖原南部の地域等の山々を結んだトレッキングコース等を整備していきたいというようなことを申し上げておりました。

このことについて、少しずつではありますけども、特に白嶽とかそういったところも、まだまだ十分ではありませんけども、観光客の皆様が安全で登れるように、整備も少しずつ進めているところであります。

そしてまた、おとといの全員協議会の中でも説明をさせていただきましたけども、対馬市の中でも特に今、巖原町の南部地域の観光振興策が遅れているというようなことで、この巖原南部地区のアクションプランとして整備も進めていきたいということで、説明をさせていただいたところでございます。

このように、この対馬市の財源も厳しい中でありますので、計画的に観光計画、また振興計画等を組み立てながら、対馬の観光計画を進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、南部のいろいろと観光のアクションプランのほうを計画をされているとはございますけども、この千俵蒔につきまして、やはり以前にもほかの議員からも質問やいろんな話があったと思います。

その中で、やっぱり市長は前回の答弁の中で、魅力ある観光地の一つとしてPRをしていくと、千俵蒔ですよ。活用を検討することは非常に重要と言われていますが、その後、やはりこういう千俵蒔を行政の中で話合いとか、地域と話合いとか、そういった場所というか、そういった話合いとかはなされたんですか。そこを話合いはされていませんか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ちょっと私のほうは、ちょっとそのところをまだ詳しく承知してお

りませんので、部長のほうに答弁してもらいます。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 観光地という枠の中で、私のほうの観光交流商工部のほうで一言だけお伝えをさせていただきますと、以前に、市になった頃だと思えますけれども、上県上対馬を中心に、そちらのほうの、今、振興部、それから上県行政サービスセンターでありますけど、そちらのほうで、その千俵蒔山の今後の取組についてという計画は以前なされておったということは聞いておまして、そういった当時の青写真というのは少し聞きはしておりますけれども、それ以上についてはちょっと私のほうも詳しく申し述べることはできません。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、話合いは少しされたということで、先ほど最初の答弁の中で、市長がやっぱり自然を生かしたそのままの状態、それも分かります。しかしながら、一番山頂にはトイレもございません。駐車場もございません。それを生かして、やはり大型バスで観光客が島外から来ております。千俵蒔が見たくても見れないという状況でございます。

私はやっぱり全体の道路を改良しろと言わないですけども、場所場所で離合ができるように拡幅区間を造りながら、やはり道路も、イノシシ、鹿の落石がかなりあるんですよね。側溝もない、その中でやはり道路を含めて、まずは道路から整備を少しずつでもいいですので、進めていってほしいという希望でございます。そうすることによって、上県町のやはり観光地ありません。これといって観光地はございません。

市長、対馬6町を見てください。上県町、峰町、観光地ありますか。

私はこの観光地に対して、地域の格差が出ていると思います。

合併以来、対馬市が峰町、上県町に対してどのようにしてきたか、市民は税金は皆さん納めているんですよ。対馬6町、峰町の住民、上県町の住民、税金を納めています。そういった税金を納めている以上、やはり決して偏りのない観光地の整備を進めていってほしい。今後、前向きに考えていただけますか。お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 決して、上県、峰、差別とか、そういったことを考えているわけでもありません。

冒頭の答弁の中でも申し上げましたように、上県地域についても、野生生物保護センターとか、バードウォッチング公園とか、いろいろな観光客が訪れる地域がございますし、峰町につきましても、対馬一宮の海神神社がございます。ここについても、あそこの仏像の盗難事件以後、この倉庫等についても、文化財課のほうで改修事業等を行っているところであります。

それで、この千俵蒔山のほうに話を戻していますけども、ここも、私もこの道路のほうは何とかせんばいかんというようなことは考えておまして、将来的にはこのアクセス道路の整備はしたいということで、担当部のほうに聞いたら、約3キロほどになるということであります。

先に、待避所の整備だけでもできんかという話をしましたら、既に待避所のほうは、もう整備を済ませているということでありました。

そういうことで、今後またそこら辺はきちんと見直していくことで、観光客の皆さんに困ることがないようにしていきたいと思っておりますけども、特に、先ほど議員おっしゃられましたトイレについては、何か工事現場用のトイレが1基だけ置いてあるというようなことをちょっとお聞きしました。

そういうことで、トイレについては、今、豆敷崎と志越の上に置いてありますトイレ、あのようなトイレを置くことができんかということで、ちょっと今検討はさせております。ただ、あれを持って行くときにも、トラックに積んで、果たしてあそこまで持って行けるかなということにはちょっと今心配はしておりますけども、できましたら、あのトイレ等については、トイレが後々の管理についても、電気、そしてまた水等が少なくなくて済むというようなことでもありますので、計画はしてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、トイレの話が出ましたが、大型が入りにくいと、道からやり直していけば大型は入ります。

市長、道を広げていけば、トイレは大型車で運べますので、ぜひ前向きに検討を進めていってほしいと思います。よろしくお願いします。

次に、離島留学制度についてでございますが、まず対馬市には、やはり高校が3つございますが、今現在、これは教育長でも構いませんけども、対馬3校、対馬高校、豊玉高校、上対馬高校の将来を見据えた学校の統合とか、そういった話合いとか、今後に向けての将来的にどう持っていくとか、そういった話合いがなされているか、そこをちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 3校とも県立学校ですので、そういう計画について、対馬市の教育委員会で話合いを持つことはありませんけれども、長崎県のほうで、県下全体のそういう統廃合に関しての計画といいますか話合い、そういうものは持たれております。

今、市長の答弁の中にありました活性化協議会、この中に県教委のほうからも職員が来まして、それぞれ豊玉高校と上対馬高校に関して、そういう協議会で魅力化と、そして、その後の統廃合等についても話合いが進められております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。

やはり学校を存続するということが一番大事ではございます。

やはり対馬で生まれ育った子供たちは、対馬の高校に進学していただきたいとは思っておりますが、やはりスポーツややりたいことや夢や目標に向かって対馬を離れ、島外に進学される生徒も毎年おられますから、これはやはり止めることはなかなか難しいと思います。ならば、やはり逆の発想を変えて、この対馬に自然豊かな魅力を感じていただける生徒を全国にも必ずいると思います。

市長から見て、まずは上対馬高校、豊玉高校、それぞれどのような魅力があるかお答え願えますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） どのような魅力があるかということはちょっと私もお答えしづらいということで、勘弁願いたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 市長、お答えしづらいというのは——市長、対馬の高校ですよ。上対馬高校、豊玉高校の魅力というのは、やはり自分も持たれていると思いますよ。

私は、上対馬高校、豊玉高校、両方ともやっぱり地元の密着した地域性のいろいろな密着した高校が一番魅力だと思いますよ。

それを市長が考えてもらわないと、どのような魅力が答えられないって、地元の高校ですよ。もう一度お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） もちろん地元の高校で残していかなければならないということは、私も強く考えております。ただ、先ほど教育長の答弁の中にもありましたように、ここは一応県立高校ということで、私が対馬市の自治体として、あまりそこに深く関わることは好ましくないかなということで、先ほどみたいな答弁にさせていただきました。ただ、言うように、この対馬高校、そして上対馬、豊玉、この3高校の子供たちにとっても、地元の高校はなくてはならない高校というようなことで、この地元の高校の存続を願っておりますし、私自身も、今後もこの3高校の存続は強く願っておりますので、先ほど来申し上げておりますように、この魅力化事業等によって、少しでもこの3高校に対馬の子供が残ってほしいという思いで、今、いろいろな事業を組み立ててきているところであります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 時間も少し迫ってきていますので、やはり昨日の会派のほうの質問でもいろいろと水産業に対しまして、高齢化の問題、担い手の不足ということで、やはり対馬

の将来を担う水産業を背負っていく生徒が少なくなっていくということが分かっております。

しかし、対馬市の特産品である穴子やアカムツ、アマダイ、農業に至っては米や野菜、対州そばの作付、しいたけ等の栽培、そのようないろいろな体験ができるコースとして、特色のある学校づくりをぜひ今後も対馬市も含めて、県のほうとも協議を行っていただいて、まずは上対馬高校のほうにそういった体験型のコースができる生徒を全国から対馬市も協力をしてやってほしいと思っております。

やはりこの本島の留学制度は、様々な問題がございます。

確かに県の管轄ではございますが、対馬市としても、地域の方との連携を図りながら、ぜひ前向きに進めていただきたいと思います。

対馬島内に進学をしてもらうためにも、対馬3高等学校についてはもっと安心して、生徒が勉強やスポーツや文化活動に一生懸命取り組んでもらうためにも、市長も公務で忙しいかとは思いますが、それぞれの高校に少しでも足を運んでいただき、学校関係者や保護者の話をよく聞いていただき、今後の問題点の改善にも努めていただきたいと思います。

時間がありませんので、最後に、市長一言だけお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も先々月、SDGsの関係で対馬高校のほうに出向きまして、対馬高校の高校生の意見を聞いてきたところでありますし、去年の5月の高体連のときには、上対馬高校のほうで、この3高校のテニスの大会があるということで、ちょっと激励に出向きまして、子供たち、そしてまた、ちょうど校長先生がそのときは何か留守だということで、校長先生とはお話することはできませんでしたけど、そのようなことでちょっと話をしてまいりました。

今後もそのような機会があれば、また出向いて、いろいろな状況等を意見交換してまいりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（初村 久藏君） いいですか。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） はい。

○議長（初村 久藏君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は午後1時ちょうどからといたします。

午前11時56分休憩

午後1時01分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。